2022.9.30 fri
at NAKANO ZERO

TOKYO KOSEI WIND ORCHESTRA

#159 Subscription Concert 2022-2023

#159

Norichika Iimori
Conductor

PROGRAM | プログラム

青い水平線（ブルー・ホライズン）／F.チェザリーニ ［約15分］

Blue Horizons / Franco Cesarini

第1楽章　発光生物	I. Luminescent Creatures
第2楽章　リヴァイアサン対クラーケン	II. Leviathan against Kraken
第3楽章　シロナガスクジラ	III. The Blue Whale

ダンス・ムーブメント／P.スパーク ［約20分］

Dance Movements / Philip Sparke

第1楽章　リトミコ	I. RITMICO
第2楽章　モルト・ヴィーヴォ～木管楽器のために	II. MOLTO VIVO (for the Woodwinds)
第3楽章　レント～金管楽器のために	III. LENTO (for the Brass)
第4楽章　モルト・リトミコ	IV. MOLTO RITMICO

休憩 Intermission ［20分］

交響曲 第3番／J.バーンズ ［約40分］

Third Symphony, Op.89 / James Barnes

第1楽章　レント～アレグロ・リトミコ	I. Lento – Allegro Ritmico
第2楽章　スケルツォ,アレグロ・モデラート	II. Scherzo, Allegro moderato
第3楽章　メスト（ナタリーのために）	III. Mesto (For Natalie)
第4楽章　フィナーレ：アレグロ・ジョコーソ	IV. Finale, Allegro giocoso

注意

- 本コンサートは、会場の観客の皆様を撮影する場合があること、および収録された映像がインターネット、DVDなど各種媒体で公開・販売されることを予めご了承ください。
- ホール内での飲食、許可のないビデオ・写真撮影、および携帯電話・スマートフォンでの撮影はご遠慮ください。
- 携帯電話・時計のアラームなど音の出る電子機器は電源をお切りください。
- 演奏中のプログラムをめくる音、お客様同士での会話など音を発する行為は他のお客様のご迷惑となることがありますのでご配慮ください。

東京佼成ウインドオーケストラでは、政府・各自治体およびホールの方針に基づき、最大限の感染予防と拡大防止のための対策を実施した上で、本公演を開催いたします。詳細につきましては、当団オフィシャルサイト掲載の《【重要】感染症予防対策についての取り組みとお願い》をご覧ください。

本公演に関するアンケートへご協力ください。

PROFILE | 指揮者プロフィール

桐朋学園大学指揮科卒業。ベルリンとミュンヘンで研鑽を積み、94年から東京交響楽団の専属指揮者、モスクワ放送交響楽団特別客演指揮者、広島交響楽団正指揮者などを歴任。96年、東京交響楽団のヨーロッパツアーでは「今後、イイモリの名が世界で注目されるであろう」と絶賛された。その後、同楽団とは密接な関係を続け、正指揮者、特別客演指揮者を務めた。03年、NHK交響楽団定期演奏会にマーラーの交響曲第1番でデビューを飾る。06年度 芸術選奨文部科学大臣新人賞、06年度中島健蔵音楽賞を受賞。

海外ではフランクフルト放響、ケルン放響、チェコ・フィル、プラハ響などに客演を重ねる。01年よりドイツ・ヴュルテンベルク・フィルの音楽総監督（GMD）に就任し、ベートーヴェンの交響曲全集を録音。06年の日本ツアーを成功に導き、2017年5月にはミュンヘンのヘルクレスザールを始めドイツ国内のツアーにて指揮。同年9月にはポーランドのオルシティン・フィルのシーズン開幕を指揮し成功を収めている。

いずみシンフォニエッタ大阪常任指揮者、ヴュルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者。07年から山形交響楽団の音楽監督に就任、次々と新機軸を打ち出してオーケストラの活動発展と水準の向上に目覚しい成果を挙げたことで2011年齋藤茂吉文化賞を受賞。

現在、パシフィック フィルハーモニア東京音楽監督、日本センチュリー交響楽団首席指揮者、山形交響楽団桂冠指揮者、東京佼成ウインドオーケストラ首席客演指揮者、中部フィルハーモニー交響楽団首席客演指揮者。2023年4月より群馬交響楽団常任指揮者に就任予定。

2020年10月、新国立劇場のシーズンオープニング公演であるブリテンのオペラ「夏の夜の夢」を指揮、好評を博し大成功を収めた。

オフィシャル・ホームページ http://iimori-norichika.com/

PROGRAM NOTES ｜曲目解説ー富樫鉄火（音楽ライター）

※本文中の「東京佼成ウインドオーケストラ」は「TKWO」と略しました。

F.チェザリーニ作曲

青い水平線（ブルー・ホライズン）

正式曲名は、「3つの交響的素描《ブルー・ホライズン》作品23b」という。原曲は、ファンファーレ・オルケスト（ベルギー・オランダ圏で盛んな、サクソフォン群＋金管群＋打楽器群編成のバンド）のために書かれた《Abysses》作品23aで、これを2002年に、吹奏楽版に改訂したもの。

原曲同様、アビス（深遠／深海）がモチーフとなっており、チェザリーニお得意の「音楽によるストーリー・テリング」が展開する。曲名に「ブルー」と付いていたり、クライマックスにクジラの声が登場したりすることから、自然回帰や、環境破壊を憂えるメッセージを読み取ることもできそうだ。

全体は3部構成だが、アタッカ（切れ目なし）で演奏される。

第1楽章　発光生物

漆黒の深海を静かに流れてゆく発光生物を描く。オーボエを中心に、管打楽器だけで無音を思わせる深海の静謐さを表現する。

第2楽章　リヴァイアサン対クラーケン

旧約聖書に登場する海獣「リヴァイアサン」（クジラのイメージ）と、北欧の海獣「クラーケン」（巨大タコのイメージ）――西洋に伝わる伝説の2大海獣の決戦を描く。戦いが終息すると、ふたたび深海へと降りてゆく。

第3楽章　シロナガスクジラ

原題のThe Blue Whaleは、地球最大の生物「シロナガスクジラ」（体長30m）の英語名。大海原を悠々と泳ぐ姿が描かれる。途中、本物のクジラの声が「効果音」として流れるので、耳を澄ませていただきたい（作曲者指定の、楽譜付属のCD音源が使用される）。終曲部分では、クジラが深海へ静かに消えてゆく様子が、美しく描かれる。なお、本曲は、日本の吹奏楽コンクールで、楽章を入れ替えたり、独自の編曲（原曲に合わせるなど）が施されることがあるが、本日の演奏が、吹奏楽版本来のオリジナルの姿である。

フランコ・チェザリーニ（1961～）は、スイス南部、イタリア語文化圏にあたるベッリンツォーナの出身。その後、ルガーノやバーゼル、ミラノなどでフルートや指揮、作曲などを学んだ。日本では、1990年代後半から《ビザンティンのモザイク画》《アルプスの詩》、そして本曲などが知られるようになった。《トム・ソーヤー組曲》《ハックルベリー・フィン組曲》《闇を這うもの》など、文学を題材にした曲も多い。大の親日家で（交響曲第2番の副題は《江戸の風景》）、いまや、フィリップ・スパークや、ヨハン・デ＝メイ、ヤン・ヴァン＝デル＝ローストなどとならぶ、ヨーロッパの大人気作曲家である。

本曲は、本日のマエストロ・飯森範親によって、2020年4月の第148回定期で演奏される予定だったのだが、新型コロナ蔓延のため、中止となってしまった。あれから2年半、本日は満を持しての演奏である。飯森は、本年2月の第157回定期でも、同じ作曲家を取り上げており（交響曲第1番《アークエンジェルズ》）、つづけてのチェザリーニ作品への挑戦となる。

また、TKWOにとって本曲は、2005年2月の第84回定期（ダグラス・ボストック指揮）につづき、本日が2回目となる。

P.スパーク作曲

ダンス・ムーブメント

イギリスのフィリップ・スパークによる、吹奏楽史に残る名曲中の名曲。米空軍バンドの委嘱により作曲、1996年に初演され、翌年、「サドラー国際吹奏楽作曲賞」を受賞した。

タイトル通り「ダンス」（舞曲）をモチーフに、4つの「ムーブメント」（楽章）が、アタッカ（切れ目なし）で演奏される。編成も大型で、バスーンやオーボエはⅠ・Ⅱ、トランペットはⅠ～Ⅳが指定されている。ほかにも当時はまだ少なかったピアノやハープの他、オプションながらチェロも指定されている（委嘱元の米空軍バンドがチェロ入り編成だったため）。本日は、オリジナル通り、チェロ入りで演奏される。

管打楽器の特性を十二分に生かし、吹奏楽でなければ表現できない世界が、圧倒的な迫力と色彩感で展開する。委嘱元が世界トップレベルのバンドだけあり、最高難度のテクニックを要求される、いわば“究極の吹奏楽曲”である。

第1楽章　リトミコ（リズミカルに）

中南米のダンス音楽のイメージ。いきなり広い音域が上下するにぎやかなオープニングをかいくぐって、ホルンとサクソフォンが主題を奏でる。その後、次々と楽器が加わり、一瞬、楽器紹介曲を思わせるような面白さがある。この出だしで、スパークの名は世界に定着したといっても過言ではない。常に変拍子と付点のリズムが交錯し、「リズム」が主題のような楽章である。

第2楽章　モルト・ヴィーヴォ（極めて活発に）～木管楽器のために

木管群だけで演奏される、イングランドの農村舞曲のイメージ。全編がオスティナート（同一パターンの繰り返し）で構成されており、いかにも田舎のダンスを思わせるが、時折、ピアノ＋ハープ＋グロッケンシュピールなどの効果音的な響きが挿入される。このあたりが、単なる舞曲再現に終わらせない、スパークならではの現代感覚あふれる聴かせどころである。

第3楽章　レント（ゆっくりと）～金管楽器のために

金管群だけで演奏される。作曲者によれば「特に舞曲は用いていないが、クラシック・バレエのパ・ド・ドゥ（男女2人のデュエット）を思わせる」とのこと。本来ならば優しく奏でられる「愛」のダンスを、金管楽器のみで表現するところがユニークである。ホルンやトロンボーンがなにかを「宣言」しているような掛け合いをつづけ、やがて壮大なコラールとなるところなど、スパークの専売特許ともいえる見事な盛り上げ方だ。

第4楽章　モルト・リトミコ（極めてリズミカルに）

全曲中の白眉ともいえる楽章。スパークが影響を受けたという、レナード・バーンスタイン《ウエスト・サイド・ストーリー》への憧憬イメージが、強烈な管打楽器のアンサンブルで展開する。瞬間的なフレーズやリズムが、次々とあらわれては通りすぎて行き、ステージ上で誰も踊っていないのに、たしかにそこで「ダンス」が繰り広げられているような気にさせられる。管打楽器ならではの魅力が極限で炸裂する7分間である。

フィリップ・スパーク（1951～）は、イギリスの人気作曲家。ブラスバンドと吹奏楽を中心に、膨大な数の作品を発表しており、その多くが、ブラスバンド選手権やコンサートなど、世界中で演奏されている。TKWOとも縁が深く、《ドラゴンの年》吹奏楽版を世界初録音したほか（エリック・バンクス指揮、1989年）、《セレブレイション》《希望の彼方へ》の2曲を委嘱初演している。《オリエント急行》《宇宙の音楽》といった人気曲も定期で取り上げ、大好評だった。

本曲は、ダグラス・ボストックの指揮で、2002年にレコーディング、2004年2月の第80回定期でも演奏されている。

J.バーンズ作曲

交響曲 第3番

現在、第9番まで書かれているバーンズの交響曲の中でも、もっとも知られる名曲。これも、前曲《ダンス・ムーブメント》同様、米空軍バンドの委嘱で作曲され、当初は1995年12月に作曲者自身の指揮で初演される予定だった。ところが、当時のクリントン大統領(民主党)と、下院議長率いる共和党が激しく対立し、予算が成立せず、異例の「連邦政府閉鎖」に追い込まれた(予算成立まですべての国立機関が閉鎖される臨時措置)。そのあおりを受けて、本曲の初演コンサートも中止となる。

結局、1996年6月、大阪市音楽団(現Osaka Shion Wind Orchestra／木村吉宏指揮)による日本初演が、そのまま世界初演となった。

委嘱を受けた時期、作曲者は、娘ナタリーちゃんを、生後わずか半年で亡くしており(その前の子も、早くに亡くしていた)、その悲しみや、苦悩を乗り越える過程を描く異色の作品となった。そのせいか、時折、副題に「Tragic」(悲劇的)と記される。作曲者自身が「もし副題を付けるならTragicがふさわしいだろう」とコメントしているせいだが、出版譜に副題は付いていない。また、正式曲名は「Symphony No.3」(交響曲第3番)ではなく、「Third Symphony」(第3交響曲)である。

編成は極大で、たとえばトランペットⅠ～Ⅲのほかに、コルネットⅠ～Ⅲ、フリューゲルホーンⅠ・Ⅱが指定されている。持ち替えも多く、フルートⅢ→アルト・フルート、オーボエⅢ→イングリッシュ・ホーン、バスーンⅢ→コントラ・バスーン、アルト・サクソフォンⅠ→ソプラノ・サクソフォンとなっている。そのため、随所に、通常編成の吹奏楽では聴けない独特な響きがあらわれるのも聴きどころである。

なお、本曲の初演用スコアは、これも《ダンス・ムーブメント》同様、委嘱元・米空軍バンドの編成に合わせてチェロ入りで書かれ、その後も、同バンドがチェロ入りで演奏・録音した。だが、「チェロなし」が、作曲者が最初に構想した姿である(出版譜は「チェロなし」編成で、初演の際はバリトン・サクソフォン部分をチェロが演奏した)。本日は、マエストロの意向もあり、初演を再現する形で、チェロ入りで演奏される。ちなみに、前述のように米空軍バンドの世界初演は中止となったが、大阪市音による世界初演もチェロ入りだった。

全体は4楽章構成。

第1楽章　レント～アレグロ・リトミコ　ハ短調

ティンパニとテューバ独奏で寂しげに始まり(バーンズ本人の専攻楽器がテューバだった)、イングリッシュ・ホーンが加わる。やがて、娘を失った悲しみや絶望感が激しく描かれる。後半はフーガとなり、アルト・フルートのソロを中心に、静かに幕を閉じる。

第2楽章　スケルツォ, アレグロ・モデラート　ヘ短調

珍しいバスーンの三重奏による、皮肉な様相を感じさせるマーチではじまる。悲劇に襲われた自分と、相変わらず漫然とした日常を送っている周辺世界との相克を諧謔的に描いているようでもある。どこか、プロコフィエフやショスタコーヴィチなど、旧ソ連時代のパロディを思わせる。

第3楽章　メスト(ナタリーのために)　変ニ長調～変ロ短調

吹奏楽史に残る慟哭の十数分。もし、娘ナタリーが生きていたら……を描く幻想曲で、冒頭と中間部で、ピアノと打楽器が、オルゴールや玩具の響きを表現し、ナタリーへの別れを告げる。特にホルンが奏でるメロディは、この楽器のために書かれた名旋律の一つである。

第4楽章　フィナーレ:アレグロ・ジョコーソ　ハ長調

ナタリーの葬儀で歌われた賛美歌《神の子羊》の旋律をもとに、絶望からよみがえっていく様子が壮大なスケールで奏でられる(作曲者には、この直後、息子ビリーが生まれ、元気に育っていた)。生命がつながることで、明日への希望が切り開かれていく過程が感動的に描かれており、すべての人に生きる力を与えてくれる、見事な人間讃歌である。米空軍バンドの実力を想定して書かれただけあり、最高難度の技巧が炸裂する。

作曲者ジェイムズ・チャールズ・バーンズ(1949～)は、アメリカの作曲家・指揮者、カンザス大学名誉教授。アルフレッド・リード亡きあと、アメリカを代表する作曲家として活躍をつづけている。スクール・バンド向けからプロ向けの大曲まで、幅広いジャンルを手がけているが、なんといっても日本では、汐澤安彦指揮／TKWOによるLP「吹奏楽コンクール自由曲集'82」に収録され、スピード演奏で有名になった《アルヴァマー序曲》(1981)で知られるようになった。

そのほか、《祈りとトッカータ》《パガニーニの主題による幻想変奏曲》や、現代的な手法を取り入れた《孤独な海岸、ノルマンディー1944》など、さまざまなタイプの吹奏楽曲を大量に発表している。

TKWOは、2016年9月の第130回定期で本曲を取り上げており(大井剛史指揮)、本日は2回目となる。

※本稿における楽器編成はオリジナル・スコアに基づくもので、本日の演奏では変更になることもあります。　〈敬称略〉

【コラム】

チェロと吹奏楽

本日は、2曲目の《ダンス・ムーブメント》と、3曲目の交響曲第3番で、弦楽器「チェロ」が加わります。吹奏楽のコンサートで「チェロ入り」の曲が2曲演奏されることは珍しいかもしれません。

通常、低音部を補強する、あるいは、管楽器にはできないピッツィカート(弦を指ではじく)を演奏するための「コントラバス」を別とすれば、少なくとも日本では、吹奏楽に弦楽器が加わることは、まずありません。

ところが、海外では、さらに「チェロ」を加える編成が多いようです。

アメリカで有名なのが、上記2曲を委嘱した米空軍バンドで、ここは通常からチェロ入り(も可能な)編成で、そのため、同バンド委嘱曲には、チェロ入りが多くあります。ほかに有名なのは、クロード・トーマス・スミス《フェスティヴァル・ヴァリエーションズ》《華麗なる舞曲》でしょう。バーンズでは、《交響的序曲》《ワイルド・ブルー・ヨンダー》なども同バンド委嘱曲なので、チェロが入っています。

チェロ入り編成は、ヨーロッパにも多くあります。

ヨハン・デ＝メイの交響曲第1番《指輪物語》は、出版譜にチェロは入っていませんが、デ＝メイ本人が指揮する際は、特別に用意した楽譜でチェロを加えることがあります(日本でもシエナ・ウインド・オーケストラを指揮した際、チェロ入りで演奏されました)。そのほか、ベルギーのベルト・アッペルモントも、交響曲第1番をはじめとする曲にチェロを入れていますし、イギリスのピーター・グレイアム《ハリソンの夢》もチェロ入りです。

ただし、アマチュア・バンドでチェロをそろえるのは難しいうえ、特に日本では吹奏楽コンクールでチェロを加えることは、規定でできません。そこで、出版譜ではオプション扱いになっており、実際にはチェロなしで演奏されることがほとんどです。その場合、チェロ部分は、ユーフォニアム、テナー／バリトン・サクソフォンなどが演奏します。

そのほか、チェロをソロ楽器とする曲には、デ＝メイ作曲《カサノヴァ～独奏チェロと吹奏楽のための》や、フリードリヒ・グルダ作曲《チェロと吹奏楽のための協奏曲》などがあり、どちらもTKWOが定期で取り上げて、好評を博しました。

「ニュー・サウンズ・イン・ブラス」(NSB)の監修・指揮・編曲者として、長年TKWOと共演してきた“吹奏楽ポップスの父”岩井直溥氏(1923～2014)は、よくこう言っておられました――「できればNSBのTKWOにも、チェロを入れたいんだよねえ。中低音部の補強もさることながら、特にバラード調の曲にチェロを入れると、すごくまろやかで、温かい響きになるんだよ」。

本日は、ポップスではありませんが、岩井氏の夢が、ほんの少し、かないました。実は、吹奏楽とチェロは、なかなか相性がいいのかもしれません。(富樫鉄火)

PROFILE | 楽団プロフィール

東京佼成ウインドオーケストラ

Tokyo Kosei Wind Orchestra

1960年（昭和35年）5月、立正佼成会附属の「佼成吹奏楽団」として発足、
その後1973年に「東京佼成ウインドオーケストラ」へ改称した日本が世界に誇るプロ吹奏楽団。
吹奏楽オリジナル作品、クラシック編曲作品やポップス、ポピュラーまで
幅広いレパートリーの演奏を通し高い音楽芸術性を創出し、
多くの人が楽しめる管楽合奏を展開、各地のコンサートで好評を博している。
また多くのレコーディング、テレビ・ラジオに出演し、吹奏楽文化の向上・普及・発展に尽力している。
2020年に楽団創立60周年を迎え、同年1月より大井剛史が正指揮者、
トーマス・ザンデルリンクが特別客演指揮者、飯森範親が首席客演指揮者、
藤野浩一がポップス・ディレクターに就任。
2022年4月より立正佼成会から独立し、一般社団法人東京佼成ウインドオーケストラとして活動。

MEMBERS | 演奏者名簿

桂冠指揮者 …… フレデリック・フェネル
正指揮者 …… 大井剛史
特別客演指揮者 …… トーマス・ザンデルリンク
首席客演指揮者 …… 飯森範親
ポップス・ディレクター …… 藤野浩一

指揮 …… 飯森範親
演奏 …… 東京佼成ウインドオーケストラ

Piccolo …… 丸田悠太（Flute）
Flutes …… 前田綾子（Piccolo）、白石法久、白戸美帆（AltoFlute）
Oboes …… 宮村和宏※、上原朋子
EnglishHorn …… 宮川真人（Oboe）
Bassoons …… 福井弘康、岡田志保
ContraBassoon …… 加藤秀一（Bassoon）
Clarinet in E♭ …… 松生知子
Clarinets in B♭ …… 大浦綾子、林裕子、太田友香※、粟生田直樹、亀居優斗、草野裕輝、竹内未緒、野田祐太郎、福井萌
AltoClarinet …… 瀧本千晶（BassClarinet）
BassClarinet …… 有馬理絵
ContraBassClarinet …… 原浩介（ContraAltoClarinet）
AltoSaxophones …… 田中靖人（SopranoSaxophone）※、林田祐和
TenorSaxophone …… 中嶋紗也
BaritoneSaxophone …… 栃尾克樹
Trumpets …… 奥山泰三、ガルシア安藤真美子、本間千也※、池田英三子、閏間健太、尾崎浩之、清川大介、松田美由貴
Horns …… 上原宏、堀風翔※、小助川大河、小田原瑞輝、田中みどり
TenorTrombones …… 今村岳志※、石村源海、大泉茉弓、山下純平
BassTrombone …… 佐藤敬一朗
Euphoniums …… 岩黒綾乃、庄司恵子
Tubas …… 近藤陽一、林裕人、横田和宏
Contrabass …… 前田芳彰※
Timpani …… 坂本雄希
Percussion …… 渡辺壮、和田光世※、黒田英実、幸多俊、竹泉晴菜、船迫優子、松下真也、村居勲
Harp …… 神谷朝子
Piano …… 田中翔一朗（Celesta, Synthesizer）
Cellos …… 大塚幸穂、松本ゆり子

※演奏委員

コンサートマスター
田中靖人

副コンサートマスター
太田友香

インスペクター
栃尾克樹、丸田悠太、今村岳志

企画委員
原浩介

役員
理事長 …… 勝川本久
専務理事 …… 堀風翔
理事 …… 井小萩浩之
監事 …… 清水宏一

事務局
事務局長 …… 勝川本久
事務局次長 …… 井小萩浩之

制作
篠原華
岩崎友香（パーソナルマネージャー）
大橋証太（ステージマネージャー）
羽田紀子（ライブラリアン）

広報
尾崎真也
荻沼美帆（チケットサービス）

賛助会・サポーターズクラブ
荻沼美帆
尾崎真也
佐原由起

総務
佐原由起

経理
水本孝枝

Tokyo Kosei Wind Orchestra

賛助会員

会員募集中

2022年4月1日、東京佼成ウインドオーケストラは「一般社団法人 東京佼成ウインドオーケストラ」に生まれ変わりました。
今後も音楽文化の発展に貢献する活動を行い豊かな社会を実現するため、趣旨にご賛同いただける多くの皆様からの継続的なご支援が必要です。賛助会へのご入会をぜひご検討ください。

年会費	賛助会員	維持会員	特別会員
個人	3,000円／1口	10,000円／1口	100,000円／1口
法人	100,000円／1口	300,000円／1口	1,000,000円／1口

詳細はこちら

※会員期間：会費納入翌月より1年間
お問い合わせ：東京佼成ウインドオーケストラ事務局 賛助会担当　FAX：03-5341-1255　MAIL：patronage@tkwo.jp

賛助会員の皆さま

五十音順、敬称略で掲載させていただいております。（2022年9月1日現在）

法人会員

特別会員	（株）佼成出版社	
維持会員	エーユーツーリスト（（株）アコード）	
	名古屋 宗次ホール	
賛助会員	アトリエ・エム株式会社	遠藤製作所 遠藤悦治
	海鮮食堂余市の仲間達	株式会社CAFUAレコード
	管楽器専門店ダク	鈴木住地（有）
	株式会社全音楽譜出版社	立花産業（株）
	中央鉄鋼 有限会社	株式会社HANDYMAN 代表取締役 久保井恵子
	株式会社日乃本錠前	株式会社プリマ楽器
	柳澤管楽器株式会社	匿名1名

個人会員

特別会員	アイちゃん	天野 正道	岡部 克子
	加賀美 猛	菅野 泰正	関根 紳雄
	田中 淳子	長瀬 善則	初田 行央
	林 正作	林 總太郎	ヘルベルト・フォン・ホリヤン
	古沢 秀明	ミーゴ	三浦 徹
	山ちゃん	匿名7名	

維持会員：221名　／　賛助会員：166名

SUPPORTERS CLUB

東京佼成ウインドオーケストラ サポーターズクラブ

会員募集中

東京佼成ウインドオーケストラ（TKWO）を応援したい仲間が集まるファンクラブです。
TKWOをもっと身近で特別な存在に♪
サポーターズクラブへ入会して、一緒にTKWOを盛り上げていきましょう！

詳細はこちら

PR Supporters PRサポーターの皆さま

敬称略で掲載させていただいております。（2022年9月1日現在）

TKWOのチラシやポスターの設置にご協力いただいている皆さまをご紹介します。

▼店舗等一覧

アルル音楽教室
（株）コマキ楽器 ジャパンパーカッションセンター
ブレーン（株） 広島本社
ブレーン（株） 東京支社
（株）管楽器専門店ダク
ミュージックスクール「ダ・カーポ」
（株）セントラル楽器
日本大学芸術学部音楽学科 江古田校舎
管楽器雑貨専門店pitch
ザ クラリネット ショップ
（株）ドルチェ楽器 管楽器アヴェニュー東京
（株）永江楽器水戸
野中貿易（株）
（株）ヤマハミュージックリテイリング 横浜店
宮地楽器 小金井店 ANNEX
（株）池袋音楽学院
（株）CAFUAレコード
吹奏楽webマガジン「Band Power」
吹奏楽専門ショップ「Band Power」
大江戸シンフォニックウィンドオーケストラ
ドレミファクトリー
フルート専門店 テオバルト
アトリエ・エム株式会社
イシバシ楽器 横浜店
フォルテ・オクターヴハウス
管楽器専門店ウィンズスタイル
葡萄房　by THE CAMEL
やしろ食堂
吹奏楽酒場「宝島。」
金寿司
フローリスト花六
中華 大枡
海鮮食堂余市
フォスターミュージック株式会社

▼個人のお客様

渡邉 直子
樫野 哲也

東京佼成ウインドオーケストラでは PRサポーターを募集しております。

東京佼成ウインドオーケストラの活動をサポートしていただけませんか？
ポスター・チラシの掲示、チラシを設置していただける店舗・公共施設を募集しております。（個人も含む）ご協力いただける皆さまのご芳名は定期演奏会プログラム・オフィシャルサイトに掲載させていただきます。

TKWO オリジナルグッズ
Original goods

好評発売中

ほかにも多くの商品をご用意しております。
ご購入・詳細はこちら

右肩部分

新オリジナルTシャツ

各1着 2,500円(税込)

会場限定／各1着 2,300円(税込)

オリジナルブラボータオル

1枚 1,700円(税込)

会場限定／1枚 1,500円(税込)

◎サイズ:34×86㎝　◎素材:綿100% 今治産

国内で生産された今治産タオルに「BRAVO」がプリントされています。

世界中の音楽愛好家へ捧ぐ完全永久保存版!

好評販売中!

東京佼成ウインドオーケストラ60年史

世界に誇るスーパーアンサンブル集団のすべてが凝縮
いま初めて紐解かれる、秘められた驚愕のエピソード

1960年、たった「15名」で始まった吹奏楽団が、
いかにして世界最高の響きを奏でるようになったのか。

定価:3,080円（税込／本体2,800円+税）
四六判(本文132mm×191mm)／丸背厚表紙／384頁／ISBN 978-4-10-910188-2

結成3年目、第1回定期演奏会の模様。
1963(昭和38)年3月10日、杉並公会堂にて。指揮は、創設者のひとり、河野貫造・副楽長。
この日は、ロッシーニ《セビリャの理髪師》序曲、チャイコフスキー《スラブ行進曲》などが演奏された。

東京佼成ウインドオーケストラ事務局にてお求めいただけます。
詳細はオフィシャルサイトをご確認ください。▲

TOKYO KOSEI WIND ORCHESTRA
公演のご案内

第160回 定期演奏会

なかのZERO 大ホール

2023年1月28日(土) 14:00開演(13:15開場)

指揮:ユベール・スダーン

©N. Ikegami

〈予定曲目〉
◉13管楽器のためのセレナード Op.7／R.シュトラウス
◉アルプスの詩／F.チェザリーニ
◉交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」／R.シュトラウス／大橋晃一 編
◉歌劇「ばらの騎士」組曲／R.シュトラウス／酒井 格 編

料金(税込):全席指定 ¥6,000／U25割引(25歳以下)¥3,000
1回券発売日／会員先行:11月10日(木) 一般発売:11月17日(木)

開催決定!

課題曲コンサート2023

2023年2月17日(金) 19:00開演
府中の森芸術劇場 どりーむホール
指揮:大井剛史(正指揮者)

©K.Miura

〈予定曲目〉
◉2023年度全日本吹奏楽コンクール課題曲 全4曲　ほか

YAMAHA
Make Waves

自由に羽ばたく、
極上の音色。

20TH ANNIVERSARY
875EX
YAMAHA

Custom
SAXOPHONES
875EX / 875

サクソフォン
製品情報はこちら

お問い合せ　株式会社ヤマハミュージックジャパン
〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11
お客様コミュニケーションセンター管弦打ご相談窓口
ナビダイヤル：0570-013-808
つながらない場合は053-411-4744へおかけください。
受付時間：月～金　10:00-17:00
（土曜・日曜・祝日・センター指定休日を除く）

ヤマハ管楽器
安心アフターサポート
※申込期間は、ご購入～1ヶ月以内
詳細はこちら

株式会社ヤマハミュージックジャパン

主催

一般社団法人東京佼成ウインドオーケストラ

共催

なかのZERO指定管理者

後援

一般社団法人全日本吹奏楽連盟
東京都吹奏楽連盟
公益社団法人日本吹奏楽指導者協会
公益財団法人日本音楽教育文化振興会
一般社団法人日本管打・吹奏楽学会
一般社団法人日本吹奏楽普及協会
日本コロムビア株式会社
株式会社テレビマンユニオン

助成

文化庁

文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会

https://www.tkwo.jp/